

1 福島県農業の持続的発展に向けた先進技術(スマート農業)を学べる施設の在り方に関する提案

先端技術と人材が集結する新しい「農」の拠点づくり

本施設を既存のアグリカレッジ施設はもとより**福島県の未来を担う農業人材育成の中核施設**としてとらえ整備します。

スマート農業やデジタル技術の進歩に遅れることなく、常に**最先端の実践的学習**が行なえる機能を備えるとともに、国の推進する「福島イノベーション・コースト構想」や、Society5.0、大学等との連携も見据えた施設を目指します。

地域のリーダーとなり次世代を担う農業者の資質としては、**伝統的な栽培方法から最先端の技術(ICT活用能力)や経営能力まで、バランスの取れた知識**が求められます。高品質な作物を作る『魂』の部分は、ツールが違うだけで昔も今も変わりません。本施設の計画においても、地域の匠の手仕事(伝統)の要素を取り入れながらCLTなどの先進の素材や技術を活かすものとし、『**伝統と革新**』をテーマとした**魅力ある空間づくり**を進めます。それにより、若い学生が**魅力を感じ**、地域に未永く愛され、継続して農業者・農業指導者を育成輩出する施設を目指します。



スマート農業研修室を新たな顔とするゾーニング計画

敷地南東側へメインアプローチを設け、教育研修棟を配置します。スマート農業研修室を正門側へ設け、**新しい施設の顔として整備**します。

スマート農業研修室は、**地場産(杉)材による在来軸組及び小屋組(貫工法)**とし、外部に面したガラスの開口部により内部の木造軸組を魅せる他、屋根根元にCLTを活用します。耐力壁の一部には、**CLT面材を組み合わせた格子パネル**を有効に魅せ、先端の研修施設にふさわしい意匠デザインとします。**農作物や農業機械を守る「蔵」のイメージ**の外観とします。



スマート農業研修室のイメージ

持続的な教育や研修を可能とする環境づくり

機能的なスマート農業研究室廻り

敷地南東側にスマート農業関連機械・機器搬入動線を確保し、今後整備予定の**スマート農業トレーニングフィールド(仮称)との連携**を図ります。

スマート農業関連機械・機器の**展示と研修が可能**な**スマート農業機械格納庫**を上記搬入動線上へ設けます。

研修室南側に**ワーキングスペース(外部)**を提案し、ドローンを活用した研修や、**研修室と一体的に各種授業や交流会に活用**できるようにします。前面道路に面して研修・イベントの**活気が伝わる**ことを期待します。

自主学習を誘発する専門ゼミ室廻り

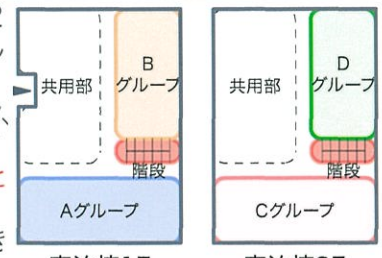
専門ゼミ室前には、研修生誰もが気軽にスマート農業、農業経営、地域情報などの調べ物ができ、常に最新情報が得られる**メディアスペース**を整備します。

専門ゼミ室の外部側には、半外部の**ワーキングテラス**を設け、小規模な外部作業を併用したゼミが可能で、専門ゼミ室前のメディアスペース側はガラススクリーンとし、**ゼミの活気がメディアスペース側でも感じられる**ようにします。ガラス面は目隠しフィルム等で緩やかに視線を制御します。西側のメインアプローチからは、ガラス開口部を通じて、メディアスペース、専門ゼミ室が緩やかに見通せる形とし、**中の活動が外部にも感じられる**ようにします。

多様な受け入れに配慮した研修生・講師宿泊棟

研修生・講師宿泊棟は2階建ての別棟とし計画します。2階建てにより、例えば1階は**男性ゾーン**、2階は**女性ゾーン**として**フロア別に使用することも可能**となります。

宿泊室は上下階で東向きの部屋、南向きの部屋の4つのゾーンに分けるような構成とすることで、**団体や家族などグループ別の宿泊に対応可能**とします。



2 良好な教育・研修環境の中で学生や研修生が快適に過ごせる施設の在り方に関する提案

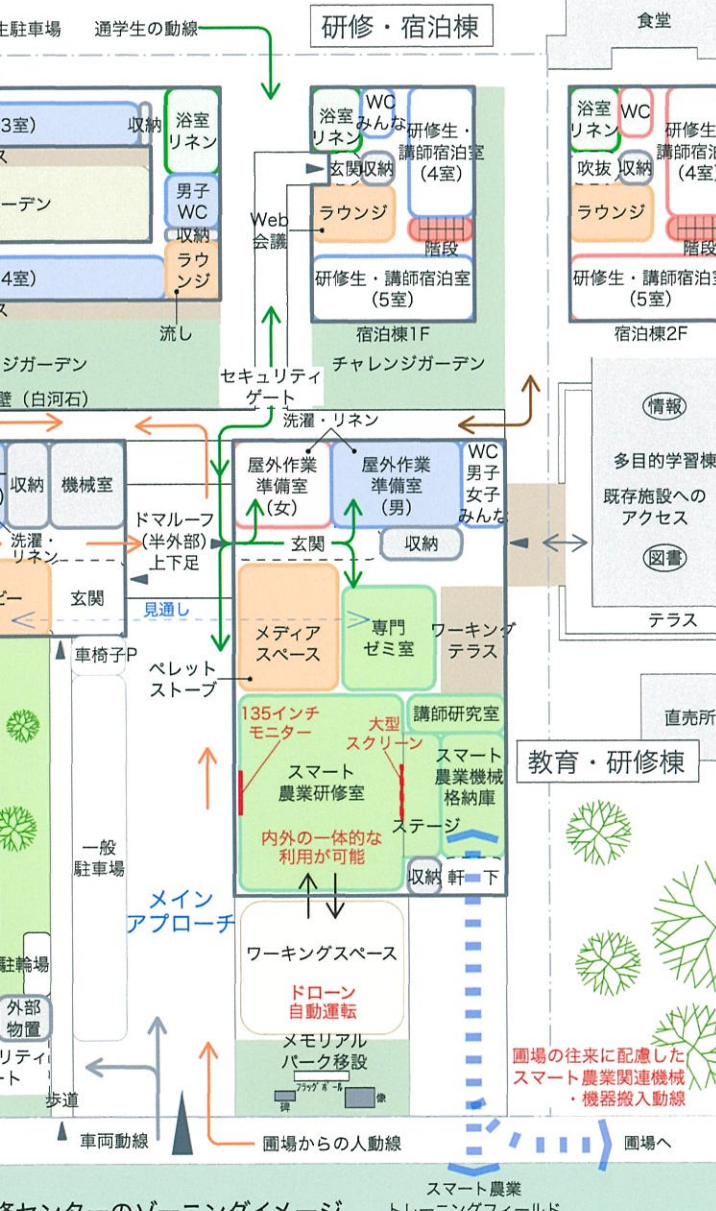
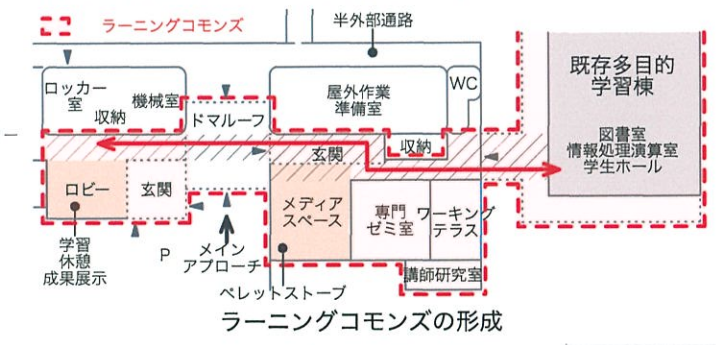
効果的な学習を育む豊かな空間「ラーニングcommons」

専門ゼミ室、メディアスペースを既存図書室(多目的学習棟)へ近接させ、講師研究室を核に**それらが一体的に活用可能な「ラーニングcommons」**を整備します。

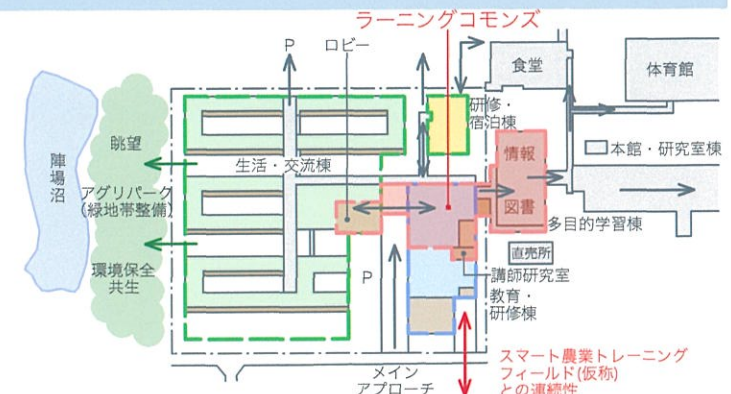
メディアスペースは専門研修ゼミ室とともに利用者への**夜間利用**に配慮し、宿泊室側ロビー・玄関と半外部の「ドマルーフ」を介して繋がります。

ドマルーフ

ドマルーフは**伝統的な農家住宅のドマ(ニワ)空間**のイメージを持つ施設のメイン玄関(「農」を機能的に受入れる入口)となり、小屋組を活かした開放的で魅力的な半外部空間として整備します。



福島の未来の「農」を育む研修センターのゾーニングイメージ



既存施設との連携性に配慮した動線計画

メディアスペース・専門ゼミ室の機能

メディアスペースでは学生、教員が**専門書籍やPC、タブレット、wifi**などを自由に使用できる他、6次産業化検証のための**キッチン**などの配置も検討します。

専門ゼミ室・メディアスペースは、**既存図書室にも近く**、メディアを活用しながら必要に応じて、最新のスマートアグリ、経営学など専門学習を深めるなど、効果的な学びや研究が可能となります。

専門ゼミ室は**吸音に優れた天井**とし、**開口部の防音性能**を高めることで、リモート通信や音の出る学習も気軽にできるスペースとします。

実践的な学習を可能とするスマート農業研修室

スマート農業研修室には、**3Dプロジェクター及び昇降スクリーン**を設ける他、ステージ反対側に壁面を確保し、**135インチのデジタルモニター**の設置を検討します。PCを繋いでスピーディーに大画面表示が可能となります。併せて**web会議**に有効な、**マイク・スピーカーシステム**等の整備も検討します。大学やメーカーと連携した**テレビ学習**も可能となります。

大人数が一斉にタブレットを使用する学習を可能とするため、必要な**wifi設備、タブレット充電設備**を想定します。

スマート農業研修室と一体的に使用でき、試運転ドローン操作なども可能な外部ワーキングスペースを提案します。

床は**農業機械の荷重に耐え得る床荷重を確保**できる防塵性の高いコンクリート+ウレタン型塗床を想定します。

セキュリティ・プライバシーが守られる安心な施設

学生寮のある「生活・交流棟」と「教育・研修棟」を別棟としながらドマルーフで繋ぐ形態となり、各領域が区別しやすく、セキュリティ上有利です。

「生活・交流棟」は、適宜**セキュリティゲート(フェンスや門扉)**により、人の流れを制御するほか、共用部分から各寮室への**目線は植栽等により有効に制御**することでプライバシーを守ります。寮室ユニットの出入口はオートロックとし、防犯性を高めます。

寮室の南側に設けるポタジェガーデン及びチャレンジガーデンは、寮生が自由に使用できる試験菜園となり、ガーデン南の寮室側は**高窓にて視線を制御**し、**プライバシー**を守ります。最も道路側(南側)のガーデン前は植栽等で外部からの視線を有効に遮る計画とします。



